

海上の森自然観察会

テーマ 冬鳥を観察しよう

日時 2014年12月20日(土)10:00~13:45(曇り/小雨)

参加者 一般:4名(子ども0) 指導員:9名

昼近くから天気が崩れそうだとの予報のため、参加者は多くないだろうと思って出かけましたが、通常と同じくらいの13名の方が参加してくれました。

テーマが冬鳥なので、水鳥が期待できる篠田池方面に向かうこととしました。歩き始めてすぐにエナガを中心とした混群に出会いました。シジュウカラなどが混じっています。繁殖期を過ぎると、これらの小鳥は群を作って暮らします。集まることで単独行動より外敵に対する警戒が行き届き、生存確率が高まることが考えられています。しかし、同種が大きな群を作ると餌などの奪い合いになるため、メジロやコゲラなど食性の少し違う他の種と混群を作ると言われています。

しかし、この日は天気のせい、余り野鳥は出現せず、鳴き声も多くは聞かれませんでした。期待していた篠田池でもカイツブリやカモなど水鳥の姿はありませんでした。参加者が集まる前に、駐車場でアカゲラの姿を見ましたが、参加者に見てもらえなかったのが残念です。

いつもはゆっくり回る観察会も、雨を気にして昼食を海上の里のサテライトでとれるよう早足で歩き、コースもいつもよりショートカットしました。

盛り上がったのは、大正池でGさんが見つけておいてくれたコムラサキの幼虫を見た時です。このチョウはヤナギの葉が幼虫の食草で、幼虫で越冬します。近い種のオオムラサキやゴマダラチョウの幼虫は落ち葉の裏で冬を越しますが、コムラサキは枝についたまま越冬するとのこと。ヤナギの枝に数匹いましたが、1センチ程度の体長で保護色のため、ここにいると言われてもなかなか枝と区別できません。よくぞ見つけたものと感心しました。大正池はこの時期、水が抜かれています。そこに雪が積もった光景は初めて見ました。テライトで昼食の後、またまたGさんがトイレの外壁に止まっているフユシヤクの間隙のメスを見つけました。メスは羽が退化し、蛾のような姿をしています。この時期ならではという生きものが見られて感激です。

サテライトから駐車場までの間では、電柱に巻かれたプラスチック板の裏に隠れていたたくさんのナミテントウやアカメヤナギの茎に付いていたヤナギコブオオアブラムシ、まだ緑色が鮮やかなクロコノマチョウの蛹(先月もあったので、羽化できないものかもしれません。)などを見ました。

四ツ沢から駐車場までは傘が欲しくなる天候でしたが、いつもより早足で回ったので大した雨に降られることなく定例観察会を終えることができました。しかし、テーマの冬鳥はツグミやシロハラが見られず、どちらかといえば昆虫が中心になった観察会でした。今季も前期と同様にツグミなどは飛来数が少ないのかもしれません。(報告:齋竹善行)

<その他観察できたもの> 鳥:ヒヨドリ、ウグイス(声)、ジョウビタキ(声)、コゲラ、カケス、ハシブトガラス、昆虫:チャバネフユエダシヤク、ヨコヅナサシガメ、クサカゲロウsp、花:ヤブツバキ、蕾:ミヤマシキミ、アセビ、サクラバハヒノキ、実:センニンソウ、ジャノヒゲ、マルバノホロシ、アオキ



(コムラサキの幼虫)



(フユシヤクのメス)